



江南^{かき}花卉園芸公園クリスタルフラワー棟 完成

江南花卉園芸公園は、国営木曽三川公園における一拠点として、平成19年10月の開園に向け整備が進められていますが、その中核施設であるクリスタルフラワー棟が完成しました。

構造：鉄骨造一部鉄筋コンクリート造2階（塔屋1階）建て

規模：建築面積1,180.03㎡、延床面積1,552.7㎡

（中部地方整備局 営繕部建築課 真鍋）

◆◆◆◆ 目 次 ◆◆◆◆

・ 巻頭言	P 2
・ 江南花卉園芸公園クリスタルフラワー棟について	P 3～P 4
・ 平成19年度優良工事等表彰式及び感謝状授与式の開催	P 5
・ 静岡県立こども病院周産期施設・外科病棟建設工事について	P 6
・ 「岐阜県総合医療センター（旧岐阜県立岐阜病院）」について	P 7
・ 複合型災害防災実働訓練（THAT）に参加	P 8
・ ～富士登山への挑戦～ ー静岡営繕 登山同好会ー	P 9
・ 永年勤続表彰受賞者紹介	P 10

巻 頭 言

営繕部長着任あいさつ



中部地方整備局 営繕部長 遠藤淳一

7月10日付けで着任致しました遠藤です。前任地は仙台で、名古屋を含め東海地方で生活するのは初めてです。中部地方の地理、風土、経済社会状況等、わからないことがいろいろありますので、どうぞよろしくお願い致します。

さて、以前から名古屋が元気だとの話を聞いていましたが、先日の報道によれば、愛知県の有効求人倍率は全国のトップだそうですし、名古屋の駅前で高層ビルの工事が盛んに進められている様子をはじめ、街全体に活気が感じられます。また、市内の整然とした幅広い道路、その上空を通る高速道路、そして地下鉄の広いプラットフォームなど、こうした社会資本を整備してきた先人の見識と実行力に敬意を覚えます。

私ども営繕部も官庁施設という社会資本の調達に関して、これまで様々な先進的な取り組みを行ってきました。例えば、バリアフリーそしてユニバーサルデザインと概念と名称を発展させてきた身体障害者等への配慮、最近ではグリーン庁舎と呼ばれるようになった省エネルギー建築設計、一昨年社会を騒がせたアスベストについても既に20年余りに撤去に取り組みしました。膨大な社会資本のストックをどう保全し活用していくかというストックマネジメントという言葉も、最近はいろいろな分野で耳にするようになってきましたが、用語として使い始めたのは営繕部ではないかと思えます。そして現在の営繕部は、安心安全の確保のための耐震改修整備、地球温暖化対策のためのグリーン改修や太陽光発電・屋上緑化等の施設整備など、現在の社会的要請に対応した施設整備を進めています。

最近はこの施設整備そのものに関わる業務のほか、透明性を確保しつつ公平かつ客観的に、適切な設計者、施工者を選定するということが大変重要な業務となっており、プロポーザル方式、一般競争入札方式、総合評価方式等の入札契約方式の導入により、業者選定の手続きに関わる事務量が大きく増加してきています。

また、昨年夏の社会資本整備審議会の建議において、国有財産の有効活用の観点からの要請があることが示され、施策展開の方向性として、「国家機関の建築物を良質なストックとして整備・活用するためのファシリティマネジメント」を実施すべきだとされています。

中部地方整備局営繕部では、平成16年度から管内の地方自治体等の参加も得て、先駆的にファシリティマネジメント（FM）研究会を設置し、知識の習得と能力の向上に努めてきており、また一方では昨年度から財務省が実施している庁舎等の使用効率等実態監査の実施について営繕部が協力し、国有財産の有効活用のため基礎的データを得てきています。

このように、私ども営繕部の業務は時代の要請に応じて軸足を移しながら変化しているように見えますが、「国民の共有財産である官庁施設に関して、良質な施設及びサービスを効率的に提供し、公共建築分野において常に先導的な役割を果たすこと」という根幹的使命（ミッション）は変わっていないと思います。今後とも、変わらない使命を遂行するために、時代の要請に応じた役割を的確に果たしていくことが必要とされています。現在要請されている役割を我々が的確に理解しているか、そしてその役割を果たすための能力が十分なものを、それぞれの立場でみつめ直し、能力の向上に努めていかなければなりません。

江南花卉園芸公園クリスタルフラワー棟について

(中部地方整備局 営繕部建築課 真鍋)

○外観

クリスタルフラワー棟は江南花卉園芸公園のシンボルとして、ふさわしい特徴的な形態としながらも、主体である花・緑の環境に親和する建物となるよう計画されました。特徴的なシルエットは、透明なガラス立方体の上面を45度ツイストし、それらを4個組み合わせた形状で花びらのイメージをモチーフとしています。また、外壁仕上げには木曽川の清明な流れを象徴するガラスカーテンウォールとし、空と大地を写し周囲の環境にとけ込みながらも表情を持たせています。

○環境、安全への配慮

ガラスに超親水性の防汚メカニズムを表面に施した熱線反射ガラスを採用することで、メンテナンス性を高めると共に熱負荷を低減しています。

安全性については、ガラス留付材を耐震性に優れた材料とすることで対応しています。また、副次的にガスケットによる横桟が強調されることになり、河川区域に建設された緑豊かな公園に飛来する鳥類の衝突防止にも役立っています。



1F PLAN

2F PLAN

○平面計画

1階では吹き抜け空間を取り囲むように各室を配置しました。西側のワークショップやセミナー室では、机上でのセミナー等が開催されます。内装を汚れ難いものとし、サッシを開放することで外部空間と一体となり、園芸実習等にも対応できる様に配慮しました。

それらの活動的な空間の南側には、季節のテーマ花壇として整備される中庭に面したレストランを計画し、外来者への憩いの場を提供します。レストランに隣接する売店では、園内で採集された季節の果実等を加工したジャムやハーブ等が販売されます。

2階は、全フロアーを企画展示スペースとし、変化に富んだ緑の演出がなされる予定で、明るく開放的な半屋外空間を提供します。

○動線計画

内部吹き抜け中心部には、換気塔を兼ねる視覚的に透明な階段室が屋上まで突き抜ける形で設置しました。各階と屋上緑化スペースは階段シャフトにより、連続性を持たせて計画されており、園内のみならず施設内でも立体的に回遊しながら楽しめるような空間を演出しました。



○設備における環境負荷低減対策

当施設では地球環境に配慮し、積極的に自然エネルギーの利用を図っています。採用された主な省エネルギー対策について紹介します。

太陽光発電システム

太陽光発電パネルは、管理棟屋上面に多結晶シリコンパネル30kW、底部分にライトスルーパネル（光透過性）4kWを組合せて設置し、発電規模としては合計34kWとしています。

太陽光で発電された電力は、管理棟電気室のキュービクルに接続され、公園施設内の照明や空調などの電力負荷へ供給されます。

CO₂削減量としては年間約19tが見込まれ、ナゴヤドームグラウンド面積分（約13,400m²）の森林が吸収するCO₂量に匹敵する効果が期待されます。



管理棟屋上設置パネル30kW



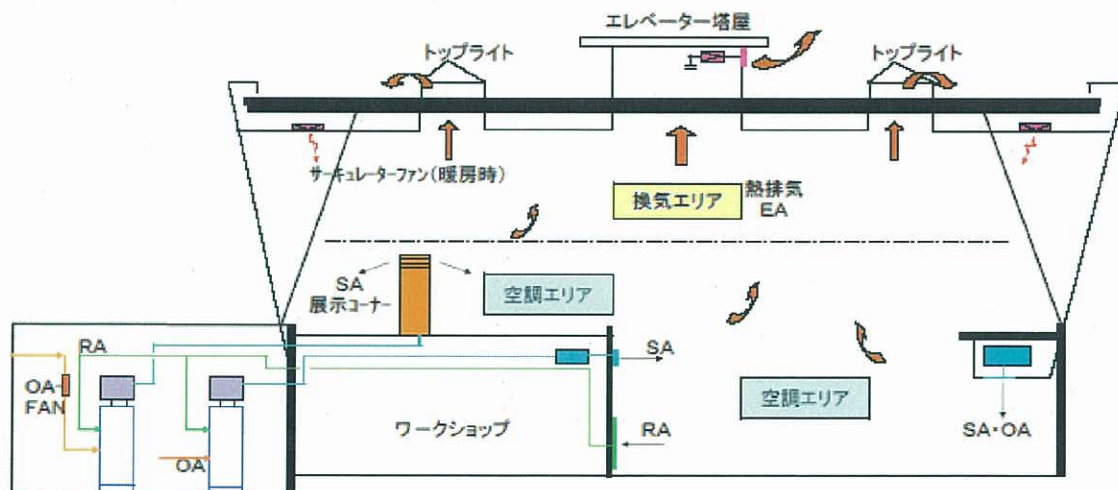
管理棟底部分設置パネル4kW

空調・換気システム

空調熱源は、空冷ヒートポンプ式パッケージ（氷蓄熱方式）を採用し、ランニングコストの低減と空調負荷をピークカットすることにより、熱源機器容量の低減を図っています。

また、居住域のみを対象に、空調エリアを設定することにより、空調負荷の軽減を図っています。

換気システムとして、夏期等に夜間の外気をOAファンで建物内に取り込み、トップライトとの連動運転により、躯体蓄熱負荷を除去するナイトパージ及び、中間期における外気冷房などを採用して、自然エネルギー利用による空調負荷の低減を図っています。



空調・換気フロー図

平成19年度優良工事等表彰式及び感謝状授与式の開催

◎中部地方整備局長表彰

平成19年度優良工事等の中部地方整備局長表彰式が7月17日（火）名古屋市内において開催されました。

優良工事（成績優秀）として、「H17 花卉園芸クリスタルフラワー（仮称）建築工事」を施工しました小原建設（株）が表彰され、合わせて優良工事技術者（成績優秀）として同社の監理技術者・現場代理人兼任の久野文也氏が表彰されました。

本建物は国営木曽三川公園の江南花卉園芸公園内にメイン施設として建設され、平成19年10月開園予定です。



クリスタルフラワー棟

施設の規模：鉄骨造2階建て

延べ面積：1,553㎡

◎保全指導・監督室長表彰及び感謝状授与



平成19年度優良工事等保全指導・監督室長表彰式及び感謝状授与式が、7月25日（水）中部地方整備局で開催されました。優良工事（成績優秀）として「H15 名古屋高裁・地裁・簡裁合同庁舎改修電気設備工事」を施工した日本電設工業（株）が表彰され、当該工事施工に当たり専門工事を担当した、（株）日盛電機、（株）太田電工社、（株）タカツキに感謝状が授与されました。同じく優良工事（成績優秀）として「H17 名古屋国税総合庁舎空調改修機械設備工事」を施工した（株）朝日工業社が表彰され、合わせて優良工事技術者（成績優秀）として、同社の現場代理人の田中敦彦氏が表彰されました。また、優良業務（成績優秀）として「H18 花卉園芸クリスタルフラワー（仮称）工事監理業務」を履行した（株）大建設が表彰されました。また、局長表彰受賞の小原建設（株）の工事施工に当たり専門工事を担当した（株）伸建工業、（株）アイエスに感謝状が授与されました。

（営繕部保全指導・監督室）

◎静岡営繕事務所長表彰状授与

静岡営繕事務所においても、平成19年度優良工事等事務所長表彰式を7月19日（水）に開催しました。対象となった工事は、《静岡県警察学校武道場建築工事》で、優良技術者（成績優秀）の事務所長表彰として、松村啓司氏（大河原一ザ・トイ經常建設共同企業体）に賞状が授与されました。今回の武道場は、地域を守る警察官の研修・訓練の場としての重要な施設であり、当該工事での品質の高い施工は、技術者の努力と技術研さん、企業の総力からなるものと評価したものです。

（静岡営繕事務所 技術課）



静岡県立こども病院周産期施設・外科病棟建設工事について

静岡県総務部営繕工事室

静岡県立こども病院は昭和52年の開業以来、県内全域を対象とした小児医療の中核として、他の医療機関では対応が困難な患者に対して、高度・専門医療を提供するとともに、地域医療支援病院として、他の医療機関との連携を通じて県内小児医療の向上に寄与してきました。

近年、小児医療を取り巻く環境は大きく変化しており、小児科医や産科医の慢性的な不足、周産期医療や救急医療の体制整備などの課題が山積しており、こども病院に対する期待がますます大きくなっています。これらを受け今回、周産期施設、外科病棟施設を中心に整備しました。

周産期医療施設の整備

周産期医療とは、母子ともに異常を生じやすい妊娠22週から生後1週までの期間における産科と小児科による一貫した医療をいい、妊娠・出産の安全性確保の観点からきわめて重要であります。産科機能を追加し、24時間体制でハイリスク胎児・母体の集中管理を行い、胎児から出産、新生児期までを産科と新生児・未熟児科が連携して総合的に治療し、切迫早産や多胎妊娠、胎児発達不良や胎児異常などに適切に対応していくこととしており、年間300～400件程度の分娩を見込んでいます。

外科病棟施設の整備

昭和52年の開業以来、施設が老朽化・狭隘化していることや、高度化する医療へ対応するため、外科病棟を建替えることとしました。主な施設としては心疾患など先天性疾患を持つ小児の救命率向上を図る循環器センター、高機能手術室、小児集中治療センターの整備を図るとともに、他の医療機関では対応困難な最重症患者を24時間体制で受け入れる高度救急エリアを整備するとともに、屋上にヘリポートを整備して遠隔地からの救急搬送患者の救命率向上を図っております。

工事概要

構造：鉄筋コンクリート造 階数：6階+PH2層 建築面積：2,487.3㎡ 延面積：13,187.1㎡
免震構造：積層ゴムアイソレーター900φ8箇所、800φ33箇所、すべり支承800φ15箇所300φ3箇所
鋼棒ダンパー12箇所、鉛ダンパー4箇所

こども病院 上空写真

(救急搬送用ヘリポート)



外観写真

(南東方向)



「岐阜県総合医療センター(旧岐阜県立岐阜病院)」について

岐阜県都市建築部公共建築住宅課

岐阜県では「日本一住みよいふるさと岐阜県」の実現をめざし、利用しやすい安全な公共建築の整備に努め、各施設を整備しております。

中でも、医療施設については、多様化する県民の医療需要に応えるべく、「県立岐阜病院再整備運営システム基本計画」を策定し、あらゆる面で県内医療機関のモデル、中心的存在となる基幹病院をめざし、県立岐阜病院を現在地において再整備しています。

□岐阜県総合医療センターの役割

- ・県内完結型医療を目指し最高レベルの医療を提供するとともに、中部ブロックを代表する心臓血管センターを整備。併せて、全県を対象とした災害医療の中核となる。
- ・先進医療への積極的対応や医療従事者への研修、医療連携の中核的役割を果たすこと等により、県内医療水準向上や医療の質的向上を担う。

□施設概要

1フロア2看護単位のL字型病棟を採用し、各看護単位のほぼ中央にあたる位置にスタッフステーションを配置し、看護動線を極力短縮し、4病室、個室ともにスタッフステーションからアクセスしやすい計画としております。また、2つのスタッフステーションの背後にスタッフ用エレベーターを4台持つサービスホールを配置し、医師・看護師・その他スタッフが患者動線と交錯することなく、医療行為がサポートできるように配置しています。

また、周辺の緑豊かな自然環境を活かして、中央の一般用のシースルーエレベーターを降りた場所に病棟を南北に貫く「グリーンストリート」を設定し、南北の端部に吹抜を配置し、北は金華山の、南は八幡山の緑の眺望を施設内に取り込んでいます。

□建物概要

名称 岐阜県総合医療センター

本館

構造 SRC造一部S造 地下1階地上10階塔屋3階 免震構造

免震装置 鉛プラー入りアイソレーター 98基(φ900～φ1,300) 弾性すべり支承 13基(φ400～φ900)

建築面積 6,859.61㎡

延べ面積 44,240.82㎡

情報交流棟(改修)

構造 RC造地下1階地上4階

建築面積 1,246.87㎡

延べ面積 5,056.17㎡

管理棟(改修)

構造 SRC造地下1階地上7階

建築面積 1,081.24㎡

延べ面積 7,679.05㎡

一部竣工 平成18年9月

最終完成 平成22年3月

大半の部分竣工(受付及び管理部門等を残し完成し、新棟で営業

情報交流棟、管理棟、アトリウム棟は未完)

□基本コンセプト

環境との調和のとれた患者を中心とした癒しの環境づくりを目指し、看護サービスの効率的・機能的な施設とし、ライフサイクルコストを低減を図っています。



複合型災害防災実働訓練（THAT）に参加

◎免震模型に関心を示す家族連れ



静岡営繕事務所が所掌する静岡県では、宝永4年（1707年）10月28日に、M8.4の地震で建物の倒壊と大津波による2万人の犠牲者、その年12月15日には富士山南東斜面から噴火が発生。翌年の8月に降灰が土石流となって大規模な濁流被害となった複合型の災害の歴史があります。このような災害が今起こるとその被害は計りしれません。災害は過去の記録からも「地震」、「大雨」、「噴火」と静岡県下ならではの複合型に発生する可能性もあり、そのための訓練や心構え等、地域や関係機関の連携強化が今後さらに必要とされます。今年は、先の複合型災害から300年。過去の大規模災害を教訓に、全国では初めての「複合型災害防災実働訓練」

：（Triple Hazards Active Training）が去る平成19年5月27日に安倍川河川敷を主会場として実施されました。

◎静岡営繕事務所職員による説明

国土交通省中部地方整備局をはじめ、県や市、県警、陸上自衛隊、ライフライン関連企業など59機関、約4,700人が参加した大規模なものでした。静岡営繕事務所としても、施設に関する防災整備（耐震補強整備）の紹介パネルの展示や、免震装置の模型等を展示し、事務所職員自从来場者へ解り易く説明に努め家族連れの方や、土木関係技術者の方々の関心を集めました。



【防災訓練ちょっとMEMO】

平成19年度中部地方整備局防災訓練を実施

平成19年9月3日午前9時30分、東海地震発生（駿河湾想定地震域でM8クラス）により静岡営繕支部においても地震による相当な被害が発生！として訓練を実施しました。情報伝達訓練では、FAXの不調で本部への報告が遅れ対処への緊迫感が増した場面や、周辺対策支部への連絡、被災状況確認での活躍が期待され機動力を発揮する防災用バイクも始動に手間取る等、今後の対応課題・教訓を得ました。（静岡営繕事務所 技術課）

◎災害対策支部設置状況



◎事務所配備の防災バイク



～富士登山への挑戦～ —静岡営繕 登山同好会—

8月下旬、日頃の運動不足を解消するために、
期間限定 登山同好会を所長はじめ技術課有志
4名で発足させました。

■登頂ルート

富士宮口:新五合目(標高2,400m)

各登山口の中で最短ルート

歩行距離7.4km



■準備…

登山予定日の数週間前から、基礎体力をつけるために静岡営繕の近くにある清水山に登ったり、最寄り駅から徒歩20分圏内であれば歩いて現場へ行ったり、各自調整して当日に望みました。

■登山当日…

午前3時に静岡営繕に集合し、富士宮口へ向かいました。月も出ていて絶好の登山日和になるだろう。と胸躍らせて登山口に到着しましたが、あたり一帯霧の海。



午前5時30分 霧の中登山開始。



新七合目到着。(標高2,780m)

まだまだ元気。。

でも、この頃から雨が強くなってきました。



午前7時30分 雨が一段と強くなり、ここで断念。勇気ある撤退をすることになりました。

(標高 約2,900m)

来年は絶対に登り切ることを胸に抱き、今年の登山同好会は解散しました。

☆☆☆ 永年勤続表彰受賞者紹介 ☆☆☆

国土交通大臣表彰を受賞されました永年勤続30年と20年表彰の職員の方々を紹介いたします。おめでとうございます。

- ・永年勤続30年表彰受賞者 建築課 課長補佐 古川真澄
- ・永年勤続20年表彰受賞者 設備課 機械設計審査係長 小嶋暢之

30年間をふり返って・・・建築課 課長補佐 古川真澄



昭和52年、(王貞治(現ソフトバンク監督)が756本塁打の世界記録達成した年)建築課基準係に配属されたのが始まりで、当時は各分野にエキスパートの方がおられ、私自身も自分として何が出来るか試行錯誤しながら、基準係、積算係、監督室、計画課と営繕業務を一通りやらせて頂きました。また、近畿地方建設局(当時)に転勤になり、他地建の仕事のやり方を学ぶ事ができましたし、家族で引っ越しをしたので関西地区をいろいろ回る事もできました。日本国際博覧会協会に出向した時は、いろいろな著名人のかたに会うことができました。仕事面では施設を造ることは同じですが、やり方が全然違うし、民間の方もおられ貴重な経験をさせてもらいました。その間に上司、先輩、後輩関係なく、いろんな事を教えて頂いたことは大変感謝しています。

これからもいろいろ学びたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

20年間の思い出・・・設備課 機械設計審査係長 小嶋暢之



昭和62年、私が入省した時は、ドラフターで図面を書いていた状況や青焼き室に半日いて、青焼きをしていた日々を懐かしく思い出します。当時の先輩方と今も変わらず仕事をしていると、あっという間の20年でした。静岡営繕においては、初めての防災保全係長で実際夜中に地震が起こった時に、事務所に出勤し活動したり、道路工事課では、まったくやり方が違う仕事に奮闘していました。

また、昔は怖い先輩が多く、解らない事を聞くのにもおどおどして聞いていました。当時とは仕事のやり方も随分変わりました。なかなか一言では言えませんが、幅広い仕事に変わってきましたが、よき上司や先輩また同僚に恵まれていたと思います。

今後も皆さんからのご指導を受け仕事に頑張っていきたいと思っておりますので宜しくお願いします。

編集：中部地方整備局 営繕部 保全指導・監督室内 電話：052-953-8196

★★★ 営繕部ホームページ ★★★

<http://www.cbr.mlit.go.jp>

編集委員 青木 稲垣 古川 表

杉山 加藤 鳥居 林